



実感が共有された。また、新たなドラッグストアの進出、新規創業支援制度の充実により、満足度が向上したのではないか問う意見も出された。

・**追分高校の変化：**

参加者から「昔の追分高校は荒れているイメージがあった」という率直な声が出たが、現在は千歳や恵庭などで不登校を経験した生徒たちが「コミュニティを変えてやり直すリスタートの場所」として選ばれる学校になっている実態が共有された。参加者からは、無くしたくない誇るべき強みとして認識すべきだという意見が出された。

・**JR維持問題のジレンマ：**

室蘭線の本数不足（10時?14時の空白）について指摘があった。JR側が求める費用負担（上下分離方式など）については、「そもそも国営に戻すべき」「自治体だけでは支えきれない」といった、国の責任を問う声も出された。

・**挑戦文化としての地域おこし協力隊：**

20名を超える協力隊員の受け入れと、卒業生の約5割が定住・起業（うどん店、ビール醸造等）している事実は、町の挑戦文化の象徴である。

協力隊を積極的に受け入れる姿勢は強みであるとの意見に対し、事務局からは「何をやっているか分からない」という声があるという実情が明かされたが、「何もしない（協力隊を入れない）のは現状維持でノーリスクに見えるが、長い目で見ればリスク。町としてリスクを取って変革を後押ししている姿勢こそが評価されるべきだ」との意見があった。

・**地震を経て変わった「強み」：**

第2次計画で掲げられていた「災害の少なさ」について、参加者から「2018年の胆振東部地震を経験した今、これはもう強みとは言えない」という指摘があった。今後は「災害がない」と想定するのではなく、気候変動や地震を前提とした安心・安全の構築が町の特色になるべきだという方向性が示された。

・**教育のシンボル化：**

早来学園の開校などは、10年前にはなかった圧倒的な強みである。

・**弱点の克服：**

「郊外のインターネット環境の遅れ」については、既に克服されたことが指摘された。

・**「コミュニティ」分野の評価の難しさ：**

スポーツに限って言えば、部活等で全国的に活躍してる人もいるが、現在は町全体として見えづらいのかもしれないという点に加え、そもそもこの分野の「つかみにくさ」という、認識のしづらさが指摘された。

・**今後の安平町が目指すべき方向性：**

町民アンケートによる将来期待する方向性について、「ほどよい田舎」というのは良い言い回しに感じる点や、主体が行政のものはパーセントが高く、主体が町民のものはパーセントが低い、引っ張ってほしい人が多い・リーダーシップという参加者からの分析が示された。

・**アンケート回答率から見える住民の受けとめ方：**

回答率が低い＝サイレントマジョリティからどう意見を聞いていくかが重要であるとの指摘があった一方で、町に対する不満がないという見方が参加者から示された。

## 【夜の部】

### ・揺るぎない立地と気候の優位性：

札幌、千歳、苫小牧という主要都市に隣接し、かつ、新千歳空港への圧倒的な近さは、他地域にはない最強の武器である。また、札幌と比較して雪が少なく、生活の負担が軽い点も、実際に住んでみて再認識した大きな強みである。

### ・教育・子育て環境のブランド化：

教育を軸としたまちづくりは着実に成果を上げているという実感がある。特に「馬がいる子ども園」など、自然と共生するユニークな教育環境は町外からも羨望の的となっている。これは単なる宣伝文句ではなく、子どもたちが「ワクワクして通える」実態を伴った強みである。

今後は幼小中の連携深化が期待される。

### ・「弱み」からの転換（通信環境と追分高校）：

かつて弱みとされていたWi-Fi環境の未整備は、この10年でほぼ解消され、現在はテレワークも可能なインフラへと進化した。また、存続が危ぶまれていた追分高校も、不登校経験者などのリスタートを支える「魅力ある学校」へとその質を変えつつある。

### ・挑戦を後押しする文化：

SNS等で情報発信する移住者等の増加により、町内の新しいカフェや飲食店への来店が促され、「新しいことに挑戦できる空気感」が町の新たな活力となっている。

### ・「健康・福祉」の現状維持：

町内に総合病院や入院施設がない不安は根強いが、千歳や苫小牧といった「二次医療圏」の病院へ迅速にアクセスできる立地が、その不安を一定程度下支えしている。

### ・公共交通（JR室蘭線）への強い不安と危機感：

デマンドバス等町独自の施策は一定効果があると考えられるものの、室蘭線が無くなれば、高校等の進学先に多大な影響を及ぼし、結果として町外へ流出を招くという懸念が示された。

JR側が求める費用負担に対し、自治体で支えるのは規模的に困難であるとの認識が示された。また、公共交通の維持は町だけの問題でなく、国のインフラのあり方として捉えなおす必要性があると指摘された。

### ・コミュニティ分野のあり方：

交流という観点で、役場が関与するというよりかは、合唱やフィットネスなどたくさん活動があることから、自ら主体的に取り組むべきだという考え方が示された。また、移住者どおしの集まりもあるのでコミュニティは充実しているとの認識もあった。

NPO団体が増えたが、小学校はPTA解体、自治会はあるがこども会はないといった、現在と10年前とはことなる現状を踏まえた活動の在り方の模索が示唆された。

### ・国道234号線への懸念：

町内を縦断する唯一の幹線道路でありながら、大型車両の通行が激しく、冬季間の対策も不十分であるとの意見があり、国に対して幅員の拡幅や休憩スポットの設置など、安全性の向上をより強くしていくべきとの提案があった。

## 5・6 その他／閉会

◇5/25の週に実施する。

以上